

令和2年度

事 業 報 告 書

公益財団法人 静岡産業振興協会

目 次

<総 括>	1
1 公益目的事業	4
(1) 産業及び地域の振興・交流拠点事業（ツインメッセ静岡）	4
① 展示場及び会議室等の貸与	4
(2) 地場産業支援事業	7
① 新商品、新技術支援及びデザイン開発支援事業	7
② 人材養成、人材確保推進事業	9
③ 「産業フェアしづおか」の開催事業	11
(3) 都市型産業支援事業	12
① 創業者支援事業	12
② マーケティング支援事業	15
③ 産学連携事業	18
④ 情報提供事業	20
⑤ 施設提供事業	21
(4) 静岡市中小企業支援センター事業	22
① 窓口相談等事業	22
② 専門家派遣事業	23
③ 新連携・地域資源活用プログラム等、利用支援事業	23
④ 中小企業等販路開拓支援事業	23
⑤ 制度融資関連事務	24
2 収 益 事 業（ツインメッセ静岡）	26
(1) 産業及び地域の振興・交流拠点事業（ツインメッセ静岡）	26
① 展示場及び会議室等の貸与	26
② レストランテナント及び飲料水自動販売機事業	27
3 公益と収益に共通する事業	28
(1) 利用促進事業	28
(2) 有料駐車場の管理・運営（ツインメッセ静岡）	29
(3) 施設整備・修繕等（ツインメッセ静岡）	30
4 組織・人材づくりへの取組	31
(1) 組織内の人材育成	31
(2) 組織内の内部統制	31
5 新型コロナウイルス感染症拡大への対応	32
(1) 安全対策	32
(2) 開催支援対策（ツインメッセ静岡）	33
(3) 主催事業の対応（産学交流センター）	34
(4) 施設利用への影響	35
(5) 協会事業の見直し等	37
6 理事会・評議員会	38
(1) 理事会	38
(2) 評議員会	39
参考資料	
◇ 展示場の利用状況	40
◇ 会議室の利用状況	43
◇ 年間来場者数	43
◇ 組織構成	44

<総 括>

当協会が策定した中期経営計画（2019 年度～2022 年度）に掲げた目標の達成に向けて、静岡産業支援センター（ツインメッセ静岡）では「ツインメッセ静岡貸館事業」及び「地場産業支援事業」を、静岡市産学交流センターでは「都市型産業支援事業」及び「中小企業支援センター事業」を実施したが、年間を通して猛威を振るった新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」という。）の拡大により、貸館利用の多数のキャンセルの発生、事業の中止や延期などの大きな影響を受け、いくつかの目標は未達成となった。

一方、大幅な収入の減少と、それを踏まえた「事業見直し」による経費削減を断行し、協会としては異例の減額補正予算を編成し、協会運営への影響を最小限に食い止めながら下記のとおり各事業に取り組み、概ね計画通り実施した。

ツインメッセ静岡の貸館事業では、4月から6月後半にかけてほぼすべての催事が中止となつたが、6月に施設利用の「ガイドライン」を作成し、感染症対策が確立するにつれ催事は徐々に回復傾向にあり、令和3年1月から3月までの貸館収入は例年の同期間の約85%まで回復した。令和2年度の貸館収入は、258件のキャンセルが発生したことにより約1億7千万円と落ち込み、前年度の約3億7千万円に対し、約2億円の減収となった。

地場産業支援事業では、静岡特有の伝統工芸技術の承継と後継者の育成を図るため、より高度な技術を習得する新たな講習会の新設準備に取り組み、令和3年度に開講する予定となつた。また、「産業フェアしづおか2020」においては、コロナ禍の状況下での開催であったが、感染対策を充分に施して実施し、従来からのテーマである「地産地消」に加え、新たに「SDGs の推進」というテーマを取り入れ、来場者にその意義を身近に感じてもらった。

産学交流センターでは、コロナ感染症の影響により、各種講座や事業が対面でできなくなつたため、ライブ配信や録画配信などのオンライン方式を中心に行開することになった。オンライン方式では視聴者の顔が見えないため、特にシリーズ物のセミナーでは対応に苦慮したが、オンライン方式での事業運営のノウハウが習得できたことが大きな成果となつた。

なお、中期経営計画の年度計画における実績の主なものは、次表のとおりである。

中期経営計画の年度計画における実績の主なもの

	令和2年度計画	実績（※評価）	説明等
ツインメッセ静岡の活用			
1	小展示場の利用率 38%以上	23.6% (△)	コロナ感染症の影響により73件のキャンセルが発生し、目標を下回った。 一方、グランシップとの連携により、静岡県から長期利用（44日間）を1件獲得した。
地場産業支援			
2	熟練者コース新設 に向けた支援体制 の整備	新たな講習会の新設 準備完了 (○)	静岡特有の伝統技術の承継を図る「静岡 <small>たくみ</small> の技 <small>わざ</small> 継承講習会（Tコース）」として令和3年度開講する。
3	Gマーク取得1者	取得なし (△)	協会の支援を受け応募した3者は、すべて一次審査を通過したが、二次審査（最終審査）で落選した。
都市型産業支援			
4	下記3項目の合計 数35件以上 ・新規創業者数 ・新商品開発 ・新事業進出 ※清水産業・情報プラザと合わせて70 件以上	新規創業者数 29件 新商品開発 17件 新事業進出 15件 <u>計 61件</u> (○) ※70件	窓口相談では、中小企業診断士の視点から、アフターコロナに対応したビジネスモデルの提案を積極的に行い、目標を大きく上回った。
ツインメッセ静岡の老朽化、耐震対策			
5	南館大規模改修の 基本設計完了	南館大規模改修の基 本設計完了 (○)	令和4年度の大規模改修の実施に向け準備作業は順調であり、令和3年度に実施設計及び施工業者の選定を行う。
南館大規模改修時のツインメッセ静岡貸館対策			
6	利用者の日程調整 (北館等への誘導) ヒアリング	112件中43件の日程 調整を完了 (○)	令和3年度末までにあと69件の調整が必要だが、コロナ感染症の影響で、利用者も先々の見通しに苦慮しており、調整が難しい。

	令和2年度計画	実績（※評価）	説明等
南館大規模改修の財源確保			
7	第3次総合計画のローリング対応	実施設計業務の財源を確保（静岡市補助金）（◎）	大規模改修経費の支援方法について、引き続き市担当課と協議を継続していく。
財政基盤の強化と健全な財政運営			
8	基本財産収入（ツインメッセ静岡） 4億4,000万円以上	貸館収入 1億7,270万円 駐車場収入 2,166万円 <u>計 1億9,436万円</u> (△)	コロナ感染症の影響により多数のキャンセルが発生し、前年度実績（※）と比較して大幅に収入が減少した。 貸館収入 2億600万円減収 駐車場収入 2,800万円減収 <u>計 2億3,400万円減収</u> ※令和元年度実績 貸館収入 3億7,800万円 駐車場収入 5,000万円 <u>計 4億2,800万円</u>
9	ツインメッセ静岡の管理費支出額 (大型修繕を除く) 3億1,000万円以下	2億9,052万円 (◎)	コロナ感染症による減収の影響を抑えるため、2回の「事業見直し」を行い、支出の削減を図った。
10	産学交流センターの施設使用料 2,300万円以上	1,877万円 (△)	コロナ感染症の影響により多数のキャンセルが発生し、大幅に収入が減少した。（還付額：168万円）

※評価の表示

◎=達成（100%以上） ○=ほぼ達成（90%以上） △=未達成（90%未満）

1 公益目的事業

(1) 産業及び地域の振興・交流拠点事業（ツインメッセ静岡）

① 展示場及び会議室等の貸与

地域産業の経済活動支援や人材育成事業など、公益を目的とした事業のため、地場産業団体、地元中小企業や国、県、市などの行政機関に展示場及び会議室を貸与し、地元中小企業の振興に寄与した。

本年度は、コロナ感染症の影響を受けて大幅に利用が減少した。展示場は4月25日から6月18日まで、会議室は4月25日から5月17日まで貸与を停止し、貸与を再開した後においても予定した催事の多くが開催を見送ったが、8月頃から徐々に催事再開への傾向を見せ始めた。（※）

協会では、感染対策の基準を明確にした施設利用のガイドラインを作成し、利用者に徹底していただくとともに、安心、安全に催事を開催していただけるようサポートに努めた。

展示場における公益目的の催事件数は89件で前年度の183件と比較して94件減少した。また、公益目的事業比率は62.8%であった。

会議室は、感染症対策のため定員を減らして貸与を再開し、当初少なかった使用も秋以降はほぼ例年どおりに持ち直し、中小企業等の技術向上セミナー、資格試験、大学入試の会場や展示場利用関係者の控室など幅広く活用された。

※コロナ感染症対応に係る展示場・会議室のキャンセル状況は35ページ参照

<主な展示場利用>

※ 地場産業団体、一般企業等の利用

催 事 名	使用期間
令和2年二級建築士試験「学科の試験」	7/4～5
金融財政事情研究会 検定試験	9/13、1/24
静岡県トラック協会「運行管理者試験」	8/22～23
2020 いざみ住まいのグランドフェア	9/25～26
第63回静岡優良ツキ板展示大会	10/5～7
こどもみらいプロジェクト秋まつり in ツインメッセ静岡	10/9～11
令和2年度 2級土木施工管理技術検定	10/24～25
マイナビインターナシップフェア	11/3、1/11
2020年度 第2回日本留学試験	11/7～8
介護福祉士国家試験	1/30～31

注)国、県、市が民間へ委託した事業は、ここに分類した。



地場産業である優良なツキ板を求める熱意のある取引が行われた。



就職ガイダンスも新型コロナウイルス感染症対策を講じ、スペースを広げて実施した。

※ 国、県、市等の利用

催事名	使用期間
令和2年度 静岡市職員採用試験	6/27~28
登録販売者試験（一般用医薬品販売の国家資格試験）	9/1~2
清水・静岡地区公立高等学校合同説明会	10/30~31
高校生J O B フェア	12/9
静岡・清水税務署合同確定申告	2/1~3/16
狩猟免許試験	2/21
令和2年度 国勢調査県審査	2/25~4/9
静岡市議会議員選挙葵区・駿河区開票区 開票	3/28~29



説明会も新型コロナウイルス感染症対策を講じ、座席の間隔を開けて三密を避けた。

※コロナ感染症の拡大により中止となった主な催事の利用

催 事 名	使用期間
セブン-イレブン商品展示会	4/14~16
第59回静岡ホビーショー	5/10~17
シズオカ〔KAGU〕メッセ2020	5/31~6/7
しんきんフェア静岡2020	12/8~9
クリスマスフェスタ2020	12/10~13
TGCしづおか2021 BY TOKYO GIRLS COLLECTION	1/5~10

<主な会議室利用>

催 事 名	使用期間（回数）
施工管理技士研修会	4/10~3/24 (45回)
補充学習による学ぶサポート事業	9/12~1/23 (8回)
介護労働講習	9/24~3/2 (91回)
令和2年分静岡・清水税務署合同確定申告控室	2/4~3/16

成 果 目 標	結 果
大展示場のリピーター定着率 90%以上	47.5% (28/59件)

(2) 地場産業支援事業

① 新商品、新技術支援及びデザイン開発支援事業

<ニューウェーブ「しづおか」創造事業>

地元製造業者の新商品開発へのチャレンジを支援するため、地元製造業者とデザイナーとのマッチングを行い、デザインの力を活用した新商品開発を行った。

この開発商品は、令和3年2月の「東京インターナショナル・ギフト・ショーLIFE & DESIGN」に展示発表を行う予定でしたが、コロナ感染症の影響により出展を取りやめた。しかしながら、参加事業者からの展示発表の場を求める声があり、3月にツインメッセ静岡で展示発表会を実施した。

また、開発商品と開発メーカーの社会的価値の向上を目的としたGマーク（グッドデザイン賞）取得支援を実施し、制度を利用した3者がGマーク取得に向け挑戦したが、いずれも最終審査に落選し取得には至らなかった。

製造メーカー、プロデューサー、デザイナーのコラボにより開発した商品が展示された。
(ニューウェーブ「しづおか」創造事業 静岡展示会)



【令和2年度開発商品】



岸本挽物
×
studioY0



三代目板金屋
×
(株) 浅野デザイン研究所

※ 上段：参加企業
下段：参加デザイナー



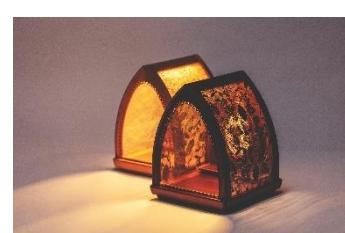
西尾金庫鋼板（株）
×
TAKASHI TESHIMA DESIGN



こぞう匣スタイル
×
RKDS



富士ゴム産業（株）
×
(株) ライカート



(有)藤原木工
×
(有)環プロダクト

◆展示発表会

ニューウェーブ「しづおか」創造事業 静岡展示会

・期 日 令和3年3月13日(土)～14日(日)

・会 場 ツインメッセ静岡 北館3階 第3小展示場

成 果 目 標	結 果
Gマーク取得1者(経営計画目標)	取得なし
新規参加者を2者獲得(経営計画目標)	4者獲得

<地場産業販路開拓・P R事業>

当協会の地場産業支援事業で開発、製作した製品のアフターフォローを行う事業で、過去の参加企業や団体、個人事業者等に対し、取扱商品の販路開拓やP Rの場を提供し、継続的な支援をしている。

本年度は継続4年目となる9月の東京インターナショナル・ギフト・ショーLIFE×DESIGN、新規出展となる6月のインテリアライフスタイル、3月の京都ギフトショーWAZA博に出展を予定していたが、いずれもコロナ感染症の影響により未実施となった。

【出展を予定していた展示会】

展示会名	開催時期	状 況
インテリアライフスタイル	令和2年6月	開催中止
東京インターナショナル・ギフト・ショー LIFE×DESIGN	令和2年9月	令和2年9月出展を取り止め令和3年2月へ延期したが、再び出展を取りやめた。
京都ギフトショー WAZA博	令和3年3月	出展見合わせ

<若手職人支援プロジェクト>

静岡の伝統工芸、ものづくり産業の未来を担う若手職人を支援し、静岡の地場産業を全国に広めていくため、前年度に引き続き、「中川政七商店」での継続的な取引商品創出を目標に、「日本市 日本橋高島屋S C店内イベントスペース」で首都圏に向けての販売及びプロモーションを実施した。

本年度は、緊急事態宣言とあいまつた巣籠り需要に対応した商品やホワイトデーに関連した商品の販売が好調であった。

・参加者 するがクリエイティブ

・会 期 令和3年3月1日～令和3年3月31日

※3月21日までは緊急事態宣言期間

前年に引き続き
実施をした販売会



・会 場 中川政七商店運営 日本市
日本橋高島屋 S C 店内イベントスペース

成 果 目 標	結 果
「中川政七商店」での継続的な取引商品 2 点創出	(令和 3 年 5 月 20 日現在) 継続的な取引商品なし

② 人材養成、人材確保推進事業

<伝統工芸技術保存講習会>

伝統工芸業界の後継者を対象に講習会を開催し、伝統技術の継承及び新技術の習得を支援した。

受講生のうち、竹工の部に参加している杉山茂靖氏が「伝統工芸士認定試験(令和元年度)」に合格し、木工・拭漆の部に参加している林隆太郎氏が「全国伝統的工芸品公募展」に初出品し 2 点の入選を果たした。

また、一定の基準を満たした受講生を対象に、既存の講習会に比べより高い技術レベルの講習環境を提供し、静岡特有の伝統工芸技術の承継とその技術を後世に伝えていく後継者の育成を図るための「静岡 匠の技継承講習会」の講習内容や講師の選定等の実施概要を決定し、令和 3 年度開講の準備を完了した。

令和 3 年度は第 1 回目として、現代の名工であり静岡市伝統工芸技術秀士でもある漆芸家の新井吉雄氏を講師とし、「珊瑚塗」「錦塗」の技術を 2 年間のプログラムを組んで実施する計画となっている。

	漆器の部	竹工の部	木工の部	蒔絵の部	拭漆の部
開催日数	コロナ感染症の影響により開講中止	11 日	17 日	20 日	8 日
講 師	大村俊一 氏	松島富蔵 氏	大内啓三 氏	安藤嘉津夫 氏	
受講者数	5 人	4 人	9 人	5 人	
内 容	四角菓子器	刳物(クリモノ)	自由制作	拭漆実習	



講習会の授業風景
(駿河竹千筋細工)



入選作
林隆太郎氏作
「きはだ手削り
拭漆盛器」

成 果 目 標	結 果
熟練者コース新設に向けた支援体制の整備（経営計画目標）	新たな講習会（静岡「匠」の技継承講習会（Tコース））の新設準備完了
講習会制作作品の展示発表の場を年1回以上設定（経営計画目標）	・産業フェアしづおか内に特設ブースを設置（2回目） ・北館3階ラウンジに常設展示コーナーを設置

<静岡ものづくり支援事業>

地場産業におけるものづくり関係者を対象に、地域産業の抱える課題等の解決につなげるための講演会及び講座の開催、展示会への出展を予定していたが、コロナ感染症の影響により実践講座のみとなった。

◆公開講演会

令和3年3月実施を予定していたが、コロナ感染症の影響により、東京都内から講師を招くことを回避し、開催を中止した。

◆実践講座

職人や製造業者を対象に、販売力・販促力の強化を目的に、売場、店舗のVMD（ビジュアルマーチャンダイジング）（※1）について、講義、現地調査、ワークショップ形式による疑似体験を交えた講習を行った。また、本年度は初めての試みとして8日間で3回の短期集中講座を実施した。

※1 VMD（ビジュアルマーチャンダイジング）・・・流通の場で商品を売るための視覚的要素を演出したマーケティングの手法。

- ・期 日 令和3年3月3日（水）・6日（土）・10日（水）
- ・会 場 ツインメッセ静岡 406・407会議室
B-nest ミーティングルーム
静岡伊勢丹、駿府楽市
- ・テ マ 「売上げをつくる売場を、つくる。2
～現地調査をおこないながら実践！VMDビジュアルマーチャンダイジング実践講座～」
- ・講 師 繁田和美 氏
(しげたデザイン事務所代表
／空間デザイナー、VMDインストラクター)
- ・参 加 者 12名

現地調査をしながらレクチャーを受ける受講生たち



◆技術プロモーション支援

商品の製作や販売面の視点とは別に、職人の技術に着目し、職人が保持している技術そのものをPRすることを目的に、2月に東京ビッグサイトで開催された素材や技術に特化した展示会「SOZAI展」に出展を予定していたが、コロナ感染症の影響を考慮し、出展を取り止めた。

③ 「産業フェアしづおか」開催事業

本年度の「産業フェアしづおか 2020」は、開催前日に静岡県新型コロナウイルス警戒レベルが5に引き上げられ開催が危ぶまれたが、受付での来場者情報の取得や検温、消毒の徹底をはじめ、会場内の換気や共有スペースの消毒等を徹底するなど来場者や出展者等の安心・安全のため、十分にコロナ感染症対策を行い開催した。

テーマを「発見!!新・SHIZUOKAスタイル！」として開催し、従来からのフェアの柱である「地産地消」に加え、新たな柱として「SDGsの推進」を取り入れ、「SDGsマルシェ」や「古着deワクチン」等のSDGs関連の企画を実施し、来場者が参加することによりSDGsの意義を身近に感じてもらった。

来場者数はコロナ感染症の影響を受け2日間で14,800人と、昨年の77,800人から大幅に減少したが、来場者アンケートでは「次回もまた来たい」という回答が93%、また、出展者アンケートでは「継続して欲しい」との回答が86%であったことから、コロナ禍ではあっても開催できたことに対して一定の評価を得ることができ、次回に期待する声が多くあった。

- ・期日 令和2年11月28日(土)・29日(日)
- ・テーマ 「発見!!新・SHIZUOKAスタイル！」
- ・会場 ツインメッセ静岡
北館・南館大展示場
- ・出展団体 149団体
- ・来場者数 14,800人

各ブースはビニルシートで対策



休憩コーナーも消毒してコロナ対策！



SDGsについて学ぼう！

成 果 目 標	結 果
・来場者数 95,000人以上（経営計画目標）	来場者数 14,800人
・新規地場産業出展者の確保1件（経営計画目標）	新規地場産業出展者3件

(3) 都市型産業支援事業

平成30年度より産学交流センターの指定管理受託にあたり、清水産業・情報プラザの管理者である静岡商工会議所と施設管理共同事業体を結成し、次代を担う本市を代表する産業を生み出すこと、及び世界、全国に挑戦する中小企業の振興を図ることを目指して、創業支援、マーケティング支援、産学連携など各種事業を行った。

中期経営計画に掲げた成果目標である新規創業者数、新商品開発件数、新分野進出件数は清水産業・情報プラザと合わせて70件を達成した。(産学交流センター61件、清水産業・情報プラザ9件)

また、コロナ禍の中、セミナー等の多くはオンライン方式で実施した。

① 創業者支援事業

資本や人材等の経営資源に乏しい創業者がスムーズに事業を開始し、独り立ちするための支援として、経営相談・指導及び事業機会拡大のための各種事業の企画・実施並びに創業者支援セミナーを開催した。

<創業・経営相談>

創業希望者や創業後間もない事業者及び中小企業者等を対象に、創業や経営に関する悩みや課題解決に向け、プロジェクトマネージャーをはじめとする支援スタッフ・窓口相談員が経営相談、事業指導を行った。

成 果 目 標	結 果
相談件数 200 件	186 件

<大学等起業家育成支援事業>

大学や高等学校等の学生を対象に、創業マインドを醸成するため「ビジネス実践講座」を実施し、なぜ創業について学ぶのか、ビジネスにおけるアイデアの出し方、事業化・資金計画の策定の仕方等の基礎的知識の習得機会を提供し、選択肢としての「創業」や「就業」、「会社の仕組み」等への理解を深めた。



静岡県立科学技術高校での授業風景

実施大学等の名称	実施回数	参加者数
静岡県立大学	5回	21名
静岡英和学院大学	3回	25名
常葉大学	3回	22名
静岡デザイン専門学校	6回	51名
静岡県立静岡商業高等学校	3回	10名
静岡県立静岡農業高等学校	2回	52名
静岡県立科学技術高等学校	1回	41名
静岡県立駿河総合高等学校	3回	40名
静岡市立高等学校	1回	327名
常葉大学附属橘高等学校	3回	97名
合計(10校13学科)	30回	686名

成 果 目 標	結 果
大学等 5 校、高校 5 校の参加者を確保	実施校：大学等 4 校（6 学科） 高校 6 校（7 学科）

この他に、先方からの個別の依頼により、以下を実施。

- ・静岡商業高校 「マーケティングをビジネスに活かす実践例」
- ・駿河総合高校 3 年生 「B C P の入門講座」
- ・静岡大学附属静岡中学校 「ビジネスプラン作成入門」

＜創業者育成支援室運営等事業＞

平成 30 年 3 月末に『S O H O しづおか』が解散したことに伴い、それまで行っていた事業を同年 4 月以降、当センターが引継いでいる。

◆ ビジネスプランコンテストの実施

静岡県内で新規に事業展開を目指す事業者及び学生を対象に、起業家精神の高揚と柔軟な発想力・独創性に富む人材の発掘、中小企業における新製品・新サービス開発促進の支援を目的として、「しづおかビジネスプランコンテスト」を開催した。

この事業は、ビジネスプランの作成から事業の立ち上げまで、一貫した支援体制が特徴となっている。

今年度はコロナ禍の中、最終審査会において Z o o m による発表が 1 プラン、首都圏在住審査員 2 名がリモートでの参加となった。また一般視聴者向けには Y o u t u b e ライブ配信を行うなど、初のオンライン方式での開催となった。

また、学生部門の応募が前年比増加したが、これはビジネス実践講座や大学関係者による告知協力が奏功したものである。

○ 開催スケジュール

- ・募集期間 R2. 7/ 1 (水)～10/21 (水)
- ・書類審査 R2. 11/9 (月)
- ・プレゼン審査 R2. 12/4 (金)、12/5 (土)
- ・最終審査会 R3. 2/16 (火)



審査員とコンテスト入賞者による記念撮影



学生が考えたビジネスプランの発表を熱心に聞く受講者たち

○ 応募件数等

- ・応募件数 97 件
(一般部門 26 件、学生部門 71 件)
- ・入賞件数 10 件
(一般部門 5 件、学生部門 5 件)

◆創業者育成室の運営

創業者の事務所開設の経費負担や創業後の経営を支援するため、インキュベート施設である創業者育成室の効果的な運営管理を行った。

◆女性限定「起業スタートアップ塾」

(2回開催/参加者延べ31人)

※すべて対面式で開催

創業間もない女性、創業に関心のある女性に対し、SNSの活用方法を支援するため、「女性の創業」に特化したセミナーを開催した。地元で活躍する女性起業家をゲスト講師に迎えて意見交換を行うほか、ビジネスにおけるSNSについての講義を行った。

・ゲスト講師：(株)ナナクレマ 代表 武友久美氏



熱意ある女性達が集まり、ソーシャルディスタンスを保って開催した。

◆創業スタートアップ講座(全6回連続講座/申込者45名)※男女共参加可

※第1回～4回：録画配信／第5回：ハイブリッド／第6回：対面式

(視聴回数 延べ379回 / 会場参加者延べ32名)

創業予定者を対象に、B-nest 経営応援団（中小企業診断士）による創業セミナーを開催した。マーケティングの基礎知識や資金計画の立て方、ビジネスプラン作成等の講義のほか、毎回、当センターと係わりの深い創業者をお招きし、創業前後の実体験を語っていただくことで、参加者から好評を博した。

・ゲスト講師：ヒューマンライト経営相談事務所 代表 峯尾喜一氏

七夕工作舎 美作佳則氏・麻知子氏

◆女性限定「Zoom活用講座」(1回開催/参加者延べ7人)

アフターコロナの新たな働き方を見据え、オンラインでセミナーを開催したい女性を対象とし、WEB会議ツール「Zoom」の活用方法について学ぶ実践的な講座を開催した。当センター初のオンラインセミナーであり、当センターの創業者育成室の入居者である杉本氏が講師となった。

・講師：&passo 杉本由美 氏

成 果 目 標	結 果
ビジネスプランコンテスト 応募件数 80 件	97 件
女性創業者を 10 人以上輩出（経営計画目標）	14 人

② マーケティング支援事業

中小企業に対する支援として、マーケットインの発想に基づき、「売れるもの」をどう創り、誰に、どう買ってもらうのかという、マーケティングに特化した支援事業を実施した。

<マーケティング支援講座（セミナー・研修・講座の企画・実施）>

創業者、中小企業者、従業員に対し、マーケティング発想を醸成する目的で、マーケティングに必要なスキル習得を支援する「マーケティング支援講座」等を 12 回開催した。

コロナ禍のため、すべてのセミナーをオンライン方式で実施した。初の試みのため、音声や動画配信のトラブルもあり、受講者の満足度を一時的に下げたが、その後、自前で行うノウハウを蓄積した結果、受講者の満足度は上昇した。

コロナ禍の長期化が予想される中、オンライン方式に合わせたテーマや講師の選定が今後の課題である。

講 座 名	内 容	参 加 者 数
マーケティング支援講座（7回）	<p>新たな市場調査スキルからネットショッピング、集客に至るまで、バラエティに富んだ講座を実施し、よりタイムリーで実践的な内容を中心に学習及び交流する機会を提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マーケティング発想で考える、コロナ危機後の持続的観光」 講師：静岡県立大学教授 岩崎邦彦氏 ・「巣ごもり消費マーケティング」 講師：(有)いろは社長 竹内謙礼氏 ・「女性の心を掴むマーケティング」 講師：(株)グローアップマーケティング社長 谷本理恵子氏 <p>ほか 4 講座</p>	延べ 565 名
中小企業支援セミナー（5回）	<ul style="list-style-type: none"> ・「リーンスタートアップとデザイン思考」 ・「デザイン思考ワークショップ」 ・「リーンローンチパッド実践編」 3回 	延べ 81 名



オンライン配信中の様子



仮想背景用グリーンカーテンを用意

成 果 目 標	結 果
講座受講者による満足度割合 90%以上（経営計画目標）	82%

<静岡おみやプロジェクト>

地域資源を活用した“静岡の新しいお土産”の開発を目指し、静岡市内の食品事業者がマーケティングのノウハウやスキルを学びながら、約10ヵ月をかけて商品開発を行い、販路開拓・販売まで当センターが支援した。

第12回目となった本年度は、「地域のおみやげ 2.0～2020年版既存商品アップデート～」と題して、既に販売されている商品の内容や伝え方を、消費者の変化や現代のトレンドに合わせてプラスアップ（リプランディング）するプログラムとした。

また、主婦モニターや食品関連バイヤー等からのヒアリングを実施し、よりお客様に選んでいただける商品へと進化させた。



静岡おみやプロジェクト
商品コンセプト・ターゲット検討の様子

◆取組内容

- ・勉強会／5回
- ・個別相談会／12回
- ・消費者モニターによる試食評価会／1回
- ・専門家による試食評価会／1回
- ・成果発表会

開催日：令和3年3月10日 場所：静岡市産学交流センター

一般向けオンライン配信およびバイヤー招致による交流会

- ・提案型販路開拓(カタログ配布によるバイヤーとのマッチング)／1回
- 出展数／15社 (うち当年度参加事業者5社)

実施期間：令和3年1月6日～3月18日

事業者への個別フィードバック (商談のポイントや今後の展開等) を実施

【令和2年度開発商品】



成茶加納㈱／千年静岡茶



うしづまチーズ工場／静岡ブルーチーズ 蒼



株三坂屋／YUME DORA



萩錦酒造㈱／萩錦お燶瓶セット



(合)高福／とろろおかか汁



株マルヒデ岩崎製茶／チャチャチャチャチャチャチャ

成 果 目 標	結 果
新商品開発 6件	商品リブランディング 6件

③ 産学連携事業

大学等(学術界)が保有する高度で専門的な知識や技術等を、市内の企業(産業界)が活用できるよう橋渡しをした。

<産学連携コーディネータによる産学連携推進>

産学連携コーディネータによる相談、大学・研究機関または企業への橋渡しを実施した。

今後も更なる支援強化に向け、引き続き各大学と産学連携コーディネータとの連携強化を図り、マッチング件数の増加に努めていく。

業名	内 容	開催回数等
産学連携コーディネータ相談	企業が抱える問題、課題等への相談	相談件数 100 件
静岡地域産学連携コーディネータ会議	静岡大学、静岡県立大学、東海大学海洋学部、(公財)静岡県産業振興財団、静岡県工業技術研究所、静岡市清水産業・情報プラザ、静岡市経済局産業政策課、マリンオープンイノベーション機構、静岡市産学交流センターのコーディネータとの情報交換	全5回
事例セミナー、講演会の開催	・第126回「産学官交流」講演会・交流会 WE B配信で実施した。 発表者：静岡理科大学	参加 31名
企業及び大学見学会の開催	・静岡県工業技術研究所 ・環境衛生科学研究所 ・鈴生グループ TEN Green Factory 菊川物流センター	参加 18名 参加 16名 参加 12名

成 果 目 標	結 果
相談件数 130 件	100 件



<地域課題に係る産学共同研究委託事業>

静岡市における地域の産業戦略の課題を解決することを目的に、静岡市が重点的に振興を図る戦略産業分野(※1)を対象として、中小企業者や各団体が大学等と共に新製品の開発・事業化、新たな事業への進出や社会・経済・環境の変化に対する取組等（調査・研究・開発事業等）を支援した。

- ※1 ①食品・ヘルスケア ②海洋・エネルギー ③観光・ブランド
 ④文化・クリエイティブ ⑤清水港・ロジスティクス
 ⑥その他地域活性化・新産業創出に関連する分野

研究事業		分野	企業 (中心団体)	大学
基礎コース ※2	オリジナル乳酸菌を使用した「静岡チーズ」の開発	①	うしづまチーズ工場	静岡県工業技術研究所 食品科
	クラゲ予防効果のあるサンスクリーン開発	⑥	(株)エイビイエス	愛媛大学 理工学研究科
	由比漁港周辺海域におけるアカモクの効率的な独自の養殖技術及び食品レシピの開発	①	おいしい産業(株)	東海大学短期大学部 食物栄養学科
	サーマル（熱赤外）カメラ搭載ドローンによる早期の松枯れ調査手法の開発	⑥	昭和設計(株)	静岡県立農林環境専門 職大学短期大学部 生産科学科
応用コース ※3	高齢者の認知機能評価が可能な音楽アプリの開発	⑥	インフィック(株)	静岡文化芸術大学 デザイン学科
	新マイクロ波抽出技術による魚節フレーバー濃縮エキスの開発	①	(有)西尾商店	東海大学 海洋学部水産学科
発展コース ※4	「TUNA PLUS+」の集客と販路拡大	①	(株)ディ・エッチ・エー・マリンフーズ	東海大学 海洋学部水産学科

- ※2 基礎コース（委託限度額 100 万円）では、主に、「調査研究や技術・サービスの向上」に係る課題で、新たな提案と具体策が見込め、将来性が期待できるものを採択した。
 ※3 応用コース（委託限度額 200 万円）では、主に、「ものづくり系」に関する課題で、基礎的な研究が既にできているもので、事業終了時に必ず試作品ができ、数年内に実用化（商品化）が見込めるものを採択した。
 ※4 発展コース（委託限度額 100 万円----前年度の 50 万円から増額）では、基礎コースまたは応用コースを経験した後、数年内の課題で、研究が既に終了し、実用化（商品化）を目的とするものを採択した。

なお、令和3年3月18日に実施した成果発表会は、コロナ感染症の影響で、会場での発表とオンライン方式でのオンデマンド配信を並行して行った。

成果目標	結果
製品化件数 2件以上（経営計画目標）	2件（※5）

※5 製品化の内訳：TUNAPLUS+（株）ディ・エッチ・エー・マリンフーズ
JELLYS GUARD（株）エイビイエス

④ 情報提供事業

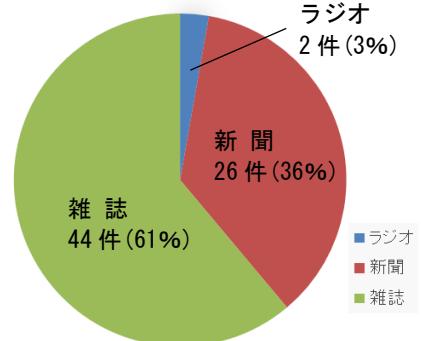
当センターの認知度の向上と利用者の拡大に向けて、起業者及び中小企業者等に対して、当センターや他の産業支援機関等の情報を分かりやすく提供した。

◆ホームページ・メールマガジン・広報誌等による広報事業

当センター、国・県・市等の各行政機関及び産業支援団体等の産業支援に関する情報について、ホームページ、メールマガジン、ブログ、Facebook、YouTubeや広報誌「B-nest FACE」等の媒体により、分かりやすくタイムリーな情報発信を心掛けながら利用者に提供したほか、メディアへの当センターの掲載回数増にも注力した。また、各種事業においてメルマガ登録を推進した結果、特にオンライン講座の増加により、メルマガ新規登録者数は増加した。

そのほか、創業者支援事業等のページのスマホ対応など、利用者の利便性向上を図った。

メディアへの掲載件数と割合



成 果 目 標	結 果
メールマガジン新規登録件数 250件	370件

(参考)令和2年度末メルマガ登録件数 2,787件
(前年比+202件)

◆ラウンジ等における情報提供

当センターのラウンジ等にて、「静岡おみやプロジェクト」「产学研共同研究委託事業」等で、新たに開発された製品の展示やそれらに関する情報を提供した。また、国・県・市等の各行政機関、他の産業支援団体及び大学等の産業支援施策の情報の一元的な提供にも努めた。

⑤ 施設提供事業

◆貸会議室業務

静岡市から、指定管理者の指定を受け、中小企業や大学等の打ち合わせや研修会、講演会等に施設の貸出しを行なった。

- ・利用件数 1,653 件
- ・開館時間 月曜日～土曜日 9 時 30 分～22 時 00 分

※ただし、休館日（日曜日、国民の休日及び 12 月 28 日から翌年 1 月 5 日）を除く。

◆会議室の利用状況

区分 年度	開館日数 (日)	来場者数 (人)	来場者数内訳(人)			利用 コマ数	総 コマ数	平均 利用率※ (%)
			会議室 利用者数	相談者数	日平均			
R2	290	28,508	27,664	844	98	4,902	11,600	42.3

※平均利用率＝利用コマ数÷総コマ数（各室 1 日 5 コマ×全 8 室×開館日数）×100

成 果 目 標	結 果
産学交流センターの施設使用料 2,300 万円以上 (経営計画目標)	1,877 万円 (※)

※コロナ感染症対応に係る会議室のキャンセル状況は 36 ページ参照

(4) 静岡市中小企業支援センター事業

静岡市から、静岡市中小企業支援センターの指定法人の指定を受け、中小企業が抱える様々な課題に対して診断・助言を行う等の各種事業を実施した結果、中期経営計画で設定した新規創業者数等の目標を大きく上回る成果を上げた。(12 ページ参照)

① 窓口相談等事業

中小企業者や創業を目指す事業者の課題解決のために、経営の専門家である中小企業診断士で構成する窓口相談員（B-nest 経営応援団）を中心に、経営相談、マーケティングアドバイス、創業相談を行った。

創業スタートアップ講座や他の事業から窓口相談へ誘導を図ったほか、ホームページやメールマガジン等のツールを使い、本事業の周知に努めた。また、窓口相談へのさらなる誘導策として、各診断士によるミニワークショップ「ちょこっとアフター6 勉強会」（※1）を10月から毎月開催した。（4月～9月はコロナ感染症の影響により中止）

※1 「ちょこっとアフター6 勉強会」…各診断士の得意・専門分野をテーマとした小勉強会

原則月1回、18時より開催（1時間程度）

◆B-nest 経営応援団による相談

・窓口相談員の配置 5名（経営、資金計画、販路開拓、現場改善、キャリア開発等）

・開設時間 月曜日から金曜日 13時から19時（産学交流センター）
土曜日 10時から17時（御幸町図書館）

・相談件数 666件（令和元年777件、平成30年590件、平成29年528件）

相談件数が令和元年以降増加しているのは、同年度より本事業が「特定創業支援等事業」（※2）に認定されたことが主な理由。

※2 国の認定を受け、創業に関する各種特典（法人設立時の登録免許税の軽減、静岡市制度融資に係る保証料の一部補助等）が受けられる事業。

成 果 目 標	結 果
下記3項目の合計数35件以上 新規創業者数 25件 新商品開発 5件 新事業進出 5件 (経営計画目標)	新規創業者数 29件 新商品開発 17件 新事業進出 15件
計 35件	計 61件

※各件数は清水産業・情報プラザ分を除く

② 専門家派遣事業

中小企業者が抱える様々な課題の解決に向けて、適切な診断・助言を行うため、当センターに登録された民間の専門家を事業者に派遣した。なお、本年度は、コロナ対応につき補正予算が組まれ、本事業費が増額されたことにより実施回数が増えた。

- ・実施分野 経営全般・情報化・マーケティング・デザイン等

・実施回数 [一般枠] 100回／22社

[創業枠] 40回／8社

[補正枠] 49回／13社 合計 189回／43社

(マーケティング支援 14社、経営改善支援 12社、デザイン開発支援 11社、情報化支援 6社)

- ・登録アドバイザー 110名

成 果 目 標	結 果
新たに5人の専門家を確保（経営計画目標）	新規専門家登録者数 9人 (うちIT関係相談可 3人)

③ 新連携・地域資源活用プログラム等、利用支援事業

国が進める「新連携」や「中小企業地域資源活用プログラム」等の国庫補助制度の採択に向け、静岡市における地域資源や企業の技術、ノウハウを活かした新製品・新サービスの開発、事業化の推進について、他の支援機関と連携を図りながら支援した。

- ・地域資源活用プログラム支援 （清水港木材産業協同組合、金栄船舶装備株）

- ・新連携支援 （ALBA・AKATSUKI株、山梨缶詰株）

④ 中小企業等販路開拓支援事業

コロナ禍のもとでの販路開拓支援として、以下の2つの施策を実施した。

- ・参加希望事業者の商品をカタログ（※）に掲載し、販路候補先へ配付することにより、販売者と事業者とをマッチングする提案型販路開拓事業を行い、参加された15社に対して、計66件の販路先を紹介した。

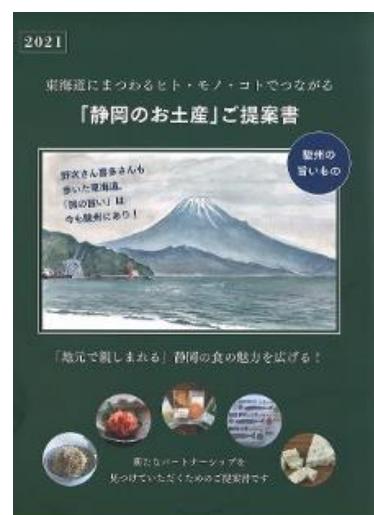
※「東海道にまつわるヒト・モノ・コトでつながる「静岡のお土産」ご提案書」

- ・募集期間 令和2年12月22日(火)～令和3年1月12日(火)

- ・参加企業 15社

- ・資料発送先 83社

- ・参加企業への案内先 計66件



- ・中小事業者および個人事業者のデジタル化を支援するため、静岡おみやプロジェクト商品の動画制作を行い、その広告展開事例をサンプルとした「動画活用オンラインセミナー」を開催した。

セミナー参加者 33 名より、「タイムリーな企画であった」などの個別評価のほか、「役に立つ」 72%、「満足」 78% のアンケート結果を得た。

※中小企業者・個人事業者向け動画活用オンラインセミナー

- ・開催日：令和 3 年 3 月 16 日（火）
- ・講師：(株)販売促進研究所 代表取締役 杉山浩之氏
動画ディレクター 澤西淳氏
- ・聴講者：33 名



成 果 目 標	結 果
商談件数 30 件	66 件

⑤ 制度融資関連事務

中小企業者が資金調達のために利用する「中小企業融資制度」の受付事務を静岡市から受託し実施した。

本年度は、コロナ感染症の影響で売上等が減少した企業等に対する資金繰り支援に係る「保証」受付事務が大量に発生したため、前年度に比べ受付件数は大幅に増加した。

なお、国のコロナ対応融資の増加に伴い、静岡市の制度融資受付額は大幅に減少した。

- ・申請受付件数 14,139 件（前年度 1,361 件）
- ・申請金額 2,902,623 千円（前年度 6,544,137 千円）

【申請受付内訳】

制 度	件数(件)	金額 (千円)
小口資金	10	24,496
短期経営改善資金	326	1,821,660
産業振興資金	127	794,087
創業支援資金	8	33,600
設備投資強化資金	14	164,780
事業承継支援資金	2	17,500
景気変動対策資金	3	46,500
静岡市制度融資 小計	490	2,902,623
保証※	13,649	
合 計	14,139	2,902,623

保証は認定事務のみ

※保証の内訳

・セーフティネット保証4号	1,992件 (101件)
・セーフティネット保証5号	5,076件 (31件)
・危機関連保証	6,581件 (100件)
計	13,649件 (232件) () 内は前年実績

2 収益事業（ツインメッセ静岡）

(1) 産業及び地域の振興・交流拠点事業（ツインメッセ静岡）

① 展示場及び会議室等の貸与

当協会の経営基盤の安定化を図るとともに、静岡市のM I C E の拠点として地域の活性化を推進するため、公益目的以外(収益事業)にも展示場及び会議室を貸与した。

本年度は、公益目的事業と同様にコロナ感染症の影響を受けて、大幅に利用が減少した。

一方で、展示場では、コロナ感染症の影響を受け催事件数は減少したものの、「わんニヤンカーニバル」「アイエイアイ経営計画発表会」や東京オリンピック・パラリンピック開催の影響により首都圏会場から誘致した「博麗神社例大祭」など新規事業が開催された。

展示場における催事件数は 98 件で前年度の 145 件と比較して 47 件減少し、収益事業比率は 37.2% であった。

会議室は、感染症対策のため定員を減らして貸与を再開し、当初少なかった使用も秋以降はほぼ例年どおりに持ち直し、企業の社員研修や商品説明会など幅広く活用された。

<主な展示場利用>

催 事 名	使用期間
ミキハウス ファミリーセール in 静岡	6 /26~28 10/23~25
輸入車アウトレットフェア	7 /10~12 2 /18~21
新日本プロレス静岡大会	8 /16 11 / 3 3 /18
わんニヤンカーニバル	8 /21~23 1 /15~17
C i S S 静岡特別秋の感謝フェア	8 /28~30
ジェムテク・ノートパソコン有償譲渡会	11 / 6 ~ 8
ミネラル ザ ワールド in 静岡 秋の天然石祭り 2 0 2 0	11/12~15
アイエイアイ 第 46 期 経営計画発表会	12/27~28
令和三年第十八回博麗神社例大祭	3 /20~21



貴重な天然石を
求めて愛好家が
押し寄せた。



通路を広くとて
同人誌の販売会を
開催した。

<主な会議室利用>

催 事 名	使用期間（回数）
シャローム友の会	4/10～3/29 (32回)
ジュネス通商会社説明会	9/12～1/23 (43回)
ナイスライフ友の会	4/14～3/23 (91回)
(株)プレナス社内会議	4/22～3/17 (23回)
外装塗装教室 市民セミナー	6/13～3/7 (9回)

② レストランテナント及び飲料水自動販売機事業

テナント方式によるレストランのほか、施設内に飲料水等の自動販売機やコインロッカー等を設置して、施設利用者・来場者の利便を図るとともに、収益の確保に努めた。

サービス施設・設備	数量等	サービス施設・設備	数量等
レストラン	1 店	コインロッカー	31 箱
飲料水自動販売機	30 台	コイン式携帯電話充電器	2 台
コインコピー機	1 台		

3 公益と収益に共通する事業

(1) 利用促進事業

静岡市のM I C E 推進の中核施設の役割を担う拠点としてにぎわいと活力ある地域づくりに貢献するため、また、施設利用率の向上を図り安定的な施設運営を継続するため、新規展示会の誘致や自主事業の開催の実現に向けて取り組んだ。

<大規模コンベンションの共同誘致営業>

本事業は、「M I C E 連絡会」参加団体である静岡市・するが企画観光局・静岡県文化財団（グランシップ）と共に、首都圏を中心に営業活動をしてきたが、本年度についてはコロナ感染症の影響により行動が制限されたことにより、新規主催者へ予定していた訪問を断念し、電話営業に留まり新規誘致案件は獲得ができなかった。

しかしながら、令和元年度から接触している「海洋関連の展示会」では、一定の進展が見られ、令和3年度に静岡市の展示施設やホテルなどのコンベンション施設の視察会を開催する予定となっており具体的な検討に入る方向へ進んでいる。

成 果 目 標	結 果
誘致案件 3 件確保	新規誘致案件無し

<展示場を活用した産業振興とM I C E 推進>

小展示場の利用率向上を目指し、新分野の催事や長期利用に焦点を当て、新規利用者の開拓を目指し営業活動を実施したが、コロナ感染症の影響で小展示場利用のリピーター催事が 73 件中止になるなど、目標の利用率に達することができなかつた。

「新分野」では静岡県産業振興財団主催の I C T や I o T 関連の展示会の開催に向けて営業したが、コロナ感染症が影響し、実施には至らなかった。今後は、令和3年度の開催を目指し継続して取り組んでいる。

一方、「長期利用」については、改修工事中のグランシップからの紹介で静岡県統計調査課の「令和2年国勢調査県審査」（西館第1小展示場 令和 3.2/25～4/9 44日間）を誘致することができた。

また、閑散期対策として行う令和4年度自主事業の開催に向けた準備として、イベントの企画案を検討した。

成 果 目 標	結 果
小展示場の利用率 38%以上 (経営計画目標)	23. 6%
自主事業開催に向けての企画案の作成 (経営計画目標)	自主事業の企画案の検討

<広報媒体の活用>

ホームページやイベントカレンダー等を活用しイベント情報を発信した。また、コロナ感染症拡大の状況を反映し、来場者に向けては当施設に来館する際の注意喚起を、利用者に向けては安心・安全に催事が開催できるよう「施設利用に関するガイドライン」等を掲載し、コロナ感染症への対応を図った。

一方、収入減に対する経費節減の観点から、広告宣伝費について見直しを行い、例年実施している広告掲載の多くを見送った。

◆イベントカレンダーの配布

- ・発行部数：12,000部（年6回・隔月発行）
- ・設置場所：静岡県庁、静岡市役所、金融機関、静岡県内観光施設等 175箇所

(2) 有料駐車場の管理・運営（ツインメッセ静岡）

来場者の利便性を高めるため、有料駐車場の管理運営を行った。

本年度は、コロナ感染症の影響を受けて、開催催事の減少等により大幅に利用台数が減少した。

◆収容台数 立体 587台・地下 175台

◆利用料金 30分毎 100円

◆駐車場利用台数

()は前年度

立体駐車場	地下駐車場	計
59,402台 (108,055台)	481台 (1,776台)	59,883台 (109,831台)

(3) 施設整備・修繕等（ツインメッセ静岡）

利用者の安心、安全の確保及びサービスの向上を図るために、「中長期修繕更新計画」に基づき 25 件の計画修繕を予定していたが、コロナ感染症の影響による事業見直しの結果、最優先の 7 件を実施し、残り 18 件は次年度以降に先送りした。（その他小破修繕は 38 件実施）

一方、令和 4 年度に予定されている南館大規模改修に向けた基本設計業務を完了し、実施設計業務の発注準備を行った。

計 画 修 繕	
1	モール屋根ガラス破損箇所等修繕
2	昇降機修繕
3	昇降機修繕その 2
4	防災設備更新第 2 期修繕
5	北館 3 階第 3 小展示場一般放送設備更新修繕
6	中央棟 3 ・ 4 階廊下・ラウンジ・サロン照明器具取替修繕
7	南館地下中央監視室監視用サーバーほか取替修繕



モール屋根ガラス破損箇所
等修繕



中央棟 3 ・ 4 階
廊下・ラウンジ・サロン
照明器具取替修繕



4 組織・人材づくりへの取組

(1) 組織内の人材育成

職員に求められる能力や意欲向上に資する研修の実施や適材適所の配置などにより、効果的・効率的な各事業の推進及び円滑な事業継承を図ることを目的に、本年度は市内の他の外郭団体の経営計画に基づく組織と人材に関する課題や取組等に関する情報を収集し、職員の研修体制や勤務実績の適正な評価制度の検討を行った。

引き続き、すでに制度を導入している外郭団体の状況等についても調査研究を行い、令和4年度の制度構築を目指して検討を重ねていく。

成 果 目 標	結 果
研修体制や評価方法の方針案の作成（経営計画目標）	職場研修、職場外研修、自己啓発を柱とした研修体系及び中期経営計画の企業理念や行動指針、達成目標等を踏まえた評価方法の方針案について検討

(2) 組織内の内部統制

静岡市の政策実現のパートナーとして、業務を遂行していくうえで求められる内部統制機能の充実を図ることを目的に、関連する規程、マニュアル等の見直しを行った。

再整備計画に沿った各種規程等の見直しを継続して行い、令和4年度中の整備完了を目指す。

成 果 目 標	結 果
再整備計画にある本年度分の各種規程の見直し完了（経営計画目標）	<ul style="list-style-type: none">「文書管理要綱」策定「職員業務改善表彰制度」創設ハラスメント規程や個人情報保護規程の整備、施設使用に係る減免等の基準の見直し等に着手

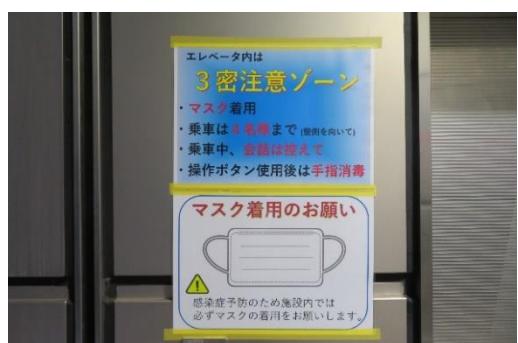
5 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

コロナ感染症に関する報道がされ始めた令和2年1月以降、協会ではさまざまな対策を講じてきた。本年度の対応状況は以下のとおりである。

(1) 安全対策

ツインメッセ静岡と産学交流センターでは、利用者の皆様に安心して施設をお使いいただけるよう、催事の主催者や来場者、職員等への安全対策を実施した。

項目	内 容
① 開催催事への感染防止対策	<ul style="list-style-type: none">・感染症対策マニュアルを作成し、主催者と連携して対応・会場内の換気を実施
② 来場者への感染防止対策	<ul style="list-style-type: none">・施設内に手洗い等の励行掲示・消毒液等の配置・ドアノブやエレベータの押しボタンなどのこまめな消毒
③ 職員への感染防止対策	<ul style="list-style-type: none">・手洗い、うがいの徹底・マスクの着用・不要不急の外出を控える・自分の体調、家族の体調をチェック・体調が不調になったときの行動
④ 防疫に対する備蓄品の管理	<ul style="list-style-type: none">・消毒液、マスク、防護服等の補充及び在庫管理
⑤ その他対策	<ul style="list-style-type: none">・感染拡大が懸念される大型催事への自粛要請・静岡市への情報提供（6回）・「新型コロナウイルス対策会議」及び「臨時経営会議」の開催 <p>※23回の「新型コロナウイルス感染症対策会議」と10回の臨時及び緊急の「経営会議」を開催 (参考：令和元年度はそれぞれ7回と3回開催)</p>



(2) 開催支援対策（ツインメッセ静岡）

貸館事業においては、感染拡大防止対策と社会経済活動の両立を目指し、感染症の予防措置を講じ、安心安全な催事の開催に向け主催者に寄り添い支援してきた。

項目	内 容
① 貸出における特例措置の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・取消料金の免除 ・概ね1年以内の延期の承認 ・取消料金算出基準の緩和 ・ガイドライン施行に沿った催事開催に伴う使用料金の免除
② ガイドラインの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・6月1日付けで「新型コロナウイルス感染症に係るツインメッセ静岡施設使用に関するガイドライン」を作成した。 ※以後、社会情勢に合わせ6回改訂
③ チェックシートによる事前の安全対策の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者が具体的な安全対策を把握するためのチェックシートを作成し、ガイドラインに沿った催事開催の可能性を判断した。
④ ガイドライン施行に伴う業務日報の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者がガイドラインを確實に実行し、安心・安全に開催しているかを確認した。 ・主催者独自の有効な対策を当館の対策へ取り込んだ。
⑤ 体温計の貸出	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者検温用の体温計を希望する主催者に貸し出した。 (非接触型手のひら体温計5台、非接触型体温計5台)



待機列の距離確保の様子



非接触型体温計の貸出

(3) 主催事業の対応（産学交流センター）

主催事業においても感染拡大防止に配慮し、6月までのセミナーは自粛し、それ以降のセミナー等の多くはオンライン方式で実施した。

対面式での実施に際しては、会場入口でのセミナー参加者の検温及び手指消毒の徹底を図った。

	項目	内容
①	ビジネスプランコンテスト最終審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる発表が1プラン ・首都圏在住審査員2名がリモートで参加 ・一般視聴者向けにはオンライン配信
②	創業スタートアップ講座（全6回）	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回～4回：録画配信 ・第5回：オンライン配信と対面式のハイブリッド ・第6回：対面式
③	女性限定「Z o o m活用講座」	<ul style="list-style-type: none"> ・当センター初のオンライン配信
④	マーケティング支援講座（全12回）	<ul style="list-style-type: none"> ・12回すべてオンライン配信
⑤	おみやプロジェクト成果発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・一般向けにはオンライン配信
⑥	産学共同研究委託事業成果発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・会場での発表とオンライン配信のハイブリッド
⑦	ちょっとアフター6勉強会（毎月5回）	<ul style="list-style-type: none"> ・9月までは中止 ・10月以降は参加人数を絞って開催
⑧	中小企業者・個人事業者向け動画活用オンラインセミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン配信



【ZOOM活用講座風景】
(収録会場の様子 ※ソーシャルディスタンス)



【創業スタートアップ講座】
(ハイブリッド形式での開催風景)

(4) 施設利用への影響

① ツインメッセ静岡

コロナ感染症による施設利用のキャンセルは令和2年2月から始まり、令和2年度に入ってさらに増え続けたが、5月をピークに、緊急事態宣言の解除とともに6月末からは減少に転じた。

結果として、令和2年度の催事のキャンセル件数と使用時見込額は、それぞれ258件、198,293千円となった。

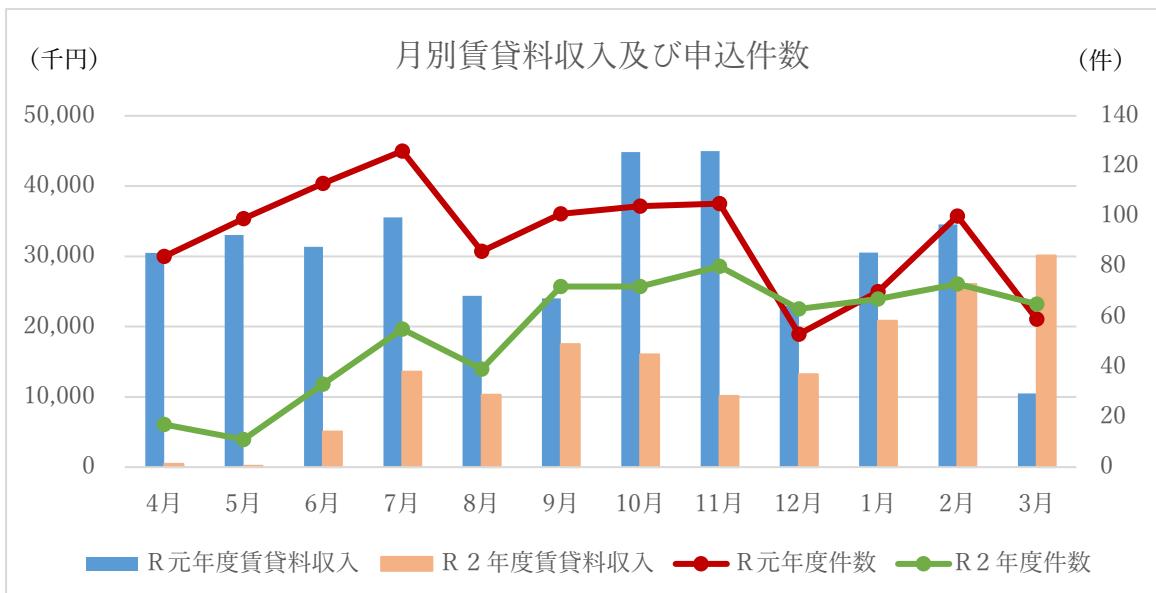
令和2年度の使用申込件数は647件で、前年度の1,100件から453件の減少となり、催事、研修等の使用による展示場・会議室の賃貸料収入については163,696千円で、前年度の367,832千円から204,136千円の減収となった。

また、催事の減少とともに来場者数も減少し、年間来場者数は163,588人となり、前年度の708,581人から544,993人減少となった。

展示場・会議室のキャンセル（取消）状況と貸館収入の影響額（使用時見込額）

		大展示場	小展示場	会議室	合計
令和2年度	取消件数（件）	85	69	104	258
	使用時見込額（千円）	176,888	17,178	4,227	198,293

【令和元年度・令和2年度 各月の状況】



② 静岡市産学交流センター

産学交流センターの会議室利用に係るキャンセルの取扱いについては、令和2年2月28日付けの静岡市総務課長・財政課長発出の通知により、コロナ感染症の影響を理由に施設の利用を取りやめることが、静岡市産学交流センター条例施行規則に規定する「利用者の責めに帰すことができない理由で利用できなかつたとき」に該当するとされたため、利用許可を取り消した上で利用料金を全額還付することになった。

対象期間は当初3月15日までであったが、その後の通知で延長され、最終的には6月末日までに申し出があったものについて全額還付することになった。

令和2年度のキャンセル件数は4月がピークで、5月からは減少に転じた。

結果として、令和2年度分は、会議室のキャンセル件数と還付金額が、それぞれ207件、1,684千円となった。

会議室のキャンセル（取消）状況と使用料収入の影響額（還付額）

		会議室
令和2年度	取消件数（件）	207
	使用料還付額（円）	1,684,000

(5) 協会事業の見直し等

安全対策及び協会運営の両方の観点から「3密」を伴う事業や感染拡大地域への出張等の回避、各種講座のオンライン化、不急な事業の先送りなど、事業の見直し作業を2回実施した。

事業見直し（1回目）	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症拡大防止及び事業効果の観点を主眼 4月16日 各課から提出 〈見直し結果〉 【収入】 1億5,561万2千円減収 【支出】 1億3,236万1千円削減 								
事業見直し（2回目）	<ul style="list-style-type: none"> 更なる支出の削減の観点を主眼 6月3日 各課から提出 〈見直し結果〉 【収入】 6,329万7千円減収 【支出】 2,790万9千円削減 〈1回目、2回目合計〉 【収入】 2億1,890万9千円減収 【支出】 1億6,027万円削減 								
令和2年度補正予算	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症による施設利用のキャンセルに伴い収入が大幅に減少したことから、経営への影響を最小限に抑えるために事業の見直しを行った結果、当初予算と大きな乖離が生じることとなり、予算の減額補正を実施 〈補正予算〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>補正前予算額</th> <th>補正後予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【収入】 7億6,062万9千円</td> <td>4億5,908万2千円</td> </tr> <tr> <td>【支出】 8億1,644万円</td> <td>6億2,253万2千円</td> </tr> <tr> <td>差額（内部留保資金）</td> <td>-1億6,345万円</td> </tr> </tbody> </table>	補正前予算額	補正後予算額	【収入】 7億6,062万9千円	4億5,908万2千円	【支出】 8億1,644万円	6億2,253万2千円	差額（内部留保資金）	-1億6,345万円
補正前予算額	補正後予算額								
【収入】 7億6,062万9千円	4億5,908万2千円								
【支出】 8億1,644万円	6億2,253万2千円								
差額（内部留保資金）	-1億6,345万円								
令和3年度予算編成	<ul style="list-style-type: none"> 予算編成の主なポイント <ul style="list-style-type: none"> *コロナ感染症の状況を踏まえたものとする *収入金額に見合う支出金額とする *補助対象事業を除き原則30%の支出削減を図る 								

6 理事会・評議員会

(1) 理事会

開催年月日	議題	審議結果
R2. 4. 1 (決議の省略)	<審議事項> 公益財団法人静岡産業振興協会副理事長の選任について	可決
R2. 5. 27 (決議の省略)	<審議事項> 評議員会の招集について	可決
R2. 5. 29 (定時)	<審議事項> (1) 令和元年度公益財団法人静岡産業振興協会事業報告及び決算の承認について (2) 定時評議員会の招集について <報告事項> 令和元年度資金運用状況の報告について <その他> 新型コロナウイルス感染に係る協会事業への影響について（報告）	可決 可決
R2. 11. 5 (決議の省略)	<審議事項> (1) 令和2年度公益財団法人静岡産業振興協会第1次補正予算について (2) 評議員会の招集について	可決 可決
R3. 3. 18 (定時)	<審議事項> (1) 令和2年度公益財団法人静岡産業振興協会第2次補正予算について (2) 令和3年度公益財団法人静岡産業振興協会事業計画について (3) 令和3年度公益財団法人静岡産業振興協会予算について (4) 令和3年度公益財団法人静岡産業振興協会資金運用方針について <報告事項> (1) 新型コロナウイルス感染症に係る協会の対応について (2) 静岡県立入検査の結果について	可決 可決 可決 可決

(2) 評議員会

開催年月日	議題	審議結果
R2. 5. 28 (決議の省略)	<審議事項> (1) 公益財団法人静岡産業振興協会評議員の選任について (2) 公益財団法人静岡産業振興協会理事の選任について	可決 可決
R2. 6. 17 (定時)	<審議事項> 令和元年度公益財団法人静岡産業振興協会決算の承認について <報告事項> 令和元年度公益財団法人静岡産業振興協会事業報告について <その他> (1) 新型コロナウイルス感染に係る協会事業への影響について（報告） (2) 令和元年度出資団体監査の結果について（報告）	承認
R2. 11. 13 (決議の省略)	<審議事項> 公益財団法人静岡産業振興協会の理事の選任について	可決
R3. 3. 30 (決議の省略)	<審議事項> 公益財団法人静岡産業振興協会の理事の選任について	可決

参考資料

◇展示場の利用状況

本年度は、コロナ感染症の影響により大展示場は4月25日から6月18日までの55日間、小展示場は4月25日から5月31日までの37日間を貸与停止したことや、貸与再開後においても予定した催事の多くが開催中止になったことから、展示場の利用は開館以来最低となった。

大展示場では、利用件数は前年度と比較して59件減少し、利用日数は186日減少した。これにより利用率は25.7ポイント減少し29.0%となった。※利用率=使用日数÷(365-休館日数)

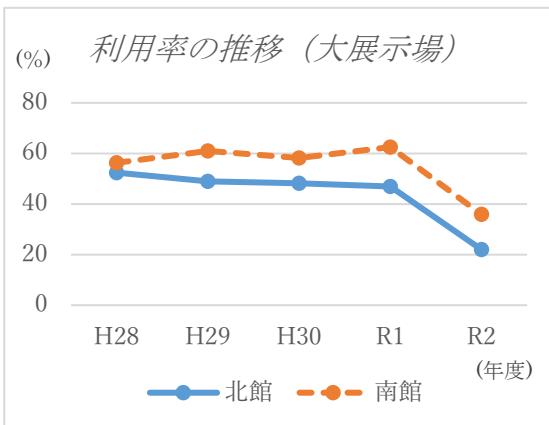
小展示場では、利用件数は前年度と比較して106件減少し、利用日数は169日の減少となった。これにより、利用率も11.7ポイント減少し、23.0%となった。

① 利用件数・利用日数・利用率

<大展示場>

()は前年度

	北館	南館	計
件 数	40 (64)	61 (96)	101 (160)
日 数	79 (169)	129 (225)	208 (394)
利用率 (%)	22.0 (46.9)	35.9 (62.5)	29.0 (54.7)



※休館日：12/29～1/3

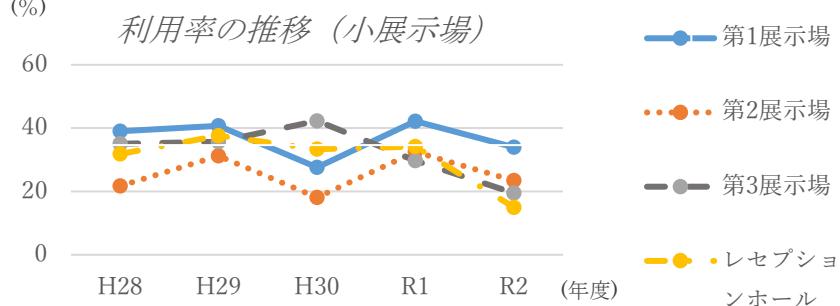
<小展示場>

()は前年度

	第1	第2	第3	レセプションホール	計
件 数	46 (73)	23 (42)	33 (61)	26 (58)	128 (234)
日 数	122 (152)	84 (117)	70 (107)	54 (123)	330 (499)
利用率 (%)	34.0 (42.2)	23.4 (32.5)	19.5 (29.7)	15.0 (34.2)	23.0 (34.7)

※休館日：12/29～1/3

(%)

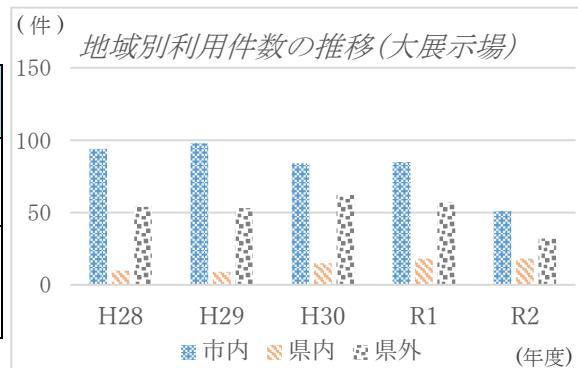


② 地域別利用状況

<大展示場>

()は前年度

	市 内	県 内	県 外	計
件 数	51 (85)	18 (18)	32 (57)	101 (160)
割 合 (%)	50.5 (53.1)	17.8 (11.3)	31.7 (35.6)	100 (100)

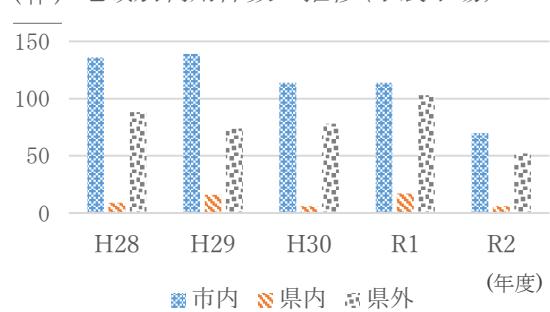


<小展示場>

()は前年度

	市 内	県 内	県 外	計
件 数	70 (114)	6 (17)	52 (103)	128 (234)
割 合 (%)	54.7 (48.7)	4.7 (7.3)	40.6 (44.0)	100 (100)

(件) 地域別利用件数の推移(小展示場)



③ 企業等規模別利用状況

<大展示場>

()は前年度

	中小企業等	大企業	計
件 数	87 (139)	14 (21)	101 (160)
割 合 (%)	86.1 (86.9)	13.9 (13.1)	100 (100)

(件) 企業等利用件数の推移 (大展示場)

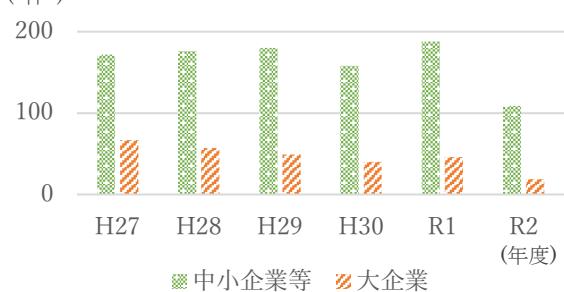


<小展示場>

()は前年度

	中小企業等	大企業	計
件 数	109 (188)	19 (46)	128 (234)
割 合 (%)	85.2 (80.3)	14.8 (19.7)	100 (100)

(件) 企業等利用件数の推移 (小展示場)



④ 業種別利用状況

単位：件 ※()は前年度

業種	大展示場			小展示場					合計
	北館	南館	小計	第1	第2	第3	レセプ	小計	
農林水産・食品等	1	0	1(12)	0	1	2	0	3(5)	4(17)
産業機械・精密機械	2	0	2(5)	0	0	0	1	1(10)	3(15)
建築・住宅・資材	5	10	15(22)	7	4	4	2	17(36)	32(58)
医療・福祉・美容	4	9	13(12)	25	2	5	2	34(26)	47(38)
家具・雑具・仏壇等	0	0	0(3)	0	2	1	1	4(16)	4(19)
交通・車両・運輸	5	3	8(12)	0	0	0	1	1(6)	9(18)
家電	0	1	1(5)	0	1	0	0	1(6)	2(11)
システム・OA・ソリューション	0	1	1(0)	0	0	0	0	0(7)	1(7)
情報・通信・映像	0	0	0(0)	0	0	0	1	1(2)	1(2)
物流・商社・店舗	10	19	29(25)	3	3	2	3	11(12)	40(37)
衣料・呉服・宝飾等	0	2	2(1)	3	3	2	2	10(10)	12(11)
スポーツ用品	1	0	1(1)	1	0	2	0	3(5)	4(6)
家庭雑貨・文具	0	0	0(2)	1	0	0	1	2(5)	2(7)
文化メディア・マスコミ	0	1	1(2)	0	3	3	3	9(12)	10(14)
趣味・娯楽・ペット・プラモデル	6	7	13(24)	1	0	0	1	2(26)	15(50)
行政	2	2	4(6)	2	1	1	0	4(5)	8(11)
学校・教育	3	4	7(18)	2	3	7	6	18(21)	25(39)
その他	1	2	3(10)	1	0	4	2	7(24)	10(34)
合計	40	61	101(160)	46	23	33	26	128(234)	229(394)

◇会議室の利用状況

会議室の利用のうち中央棟会議室では、コロナ感染症の影響により4月25日から5月17日までの23日間を貸与停止したことや、感染症対策による使用制限等により、会議室9室の利用日数の合計は1,461日であり、前年度1,837日に比べ376日減少し、利用率は11.5ポイント低下し、45.2%となった。

※利用率=使用日数 ÷ (365-休館日数)

西館会議室は、静岡市体育協会、静岡技能協会の事務所使用により、引き続き年間を通して貸与した。

<中央棟>

()は前年度

会議室	401	402	403	404	405	406	407	408	409	計
日 数	154 (208)	160 (194)	160 (183)	204 (197)	206 (210)	176 (195)	177 (227)	197 (257)	27 (166)	1,461 (1,837)
利用率 (%)	42.9 (57.8)	44.6 (53.9)	44.6 (50.8)	56.8 (54.7)	57.4 (58.3)	49.0 (54.2)	49.3 (63.1)	54.9 (71.4)	7.5 (46.1)	45.2 (56.7)

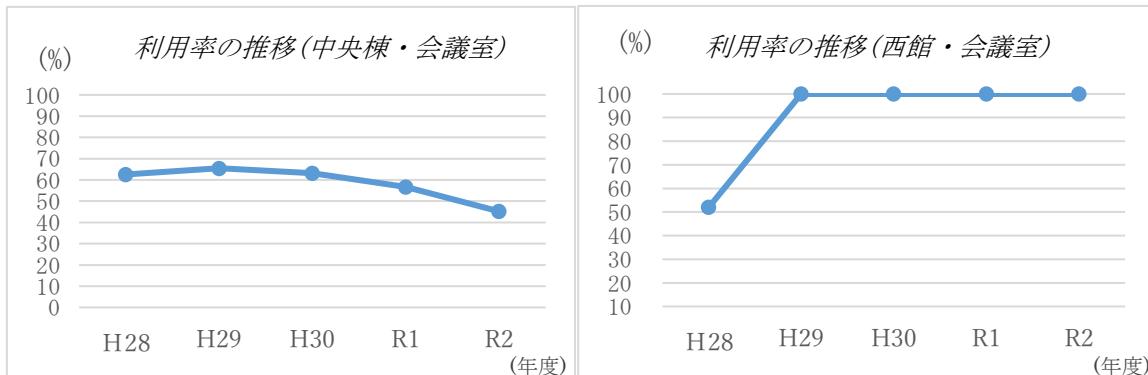
※休館日：12/29～1/3

<西館>

()は前年度

会議室	201	202	203	計
日 数	359 (360)	359 (360)	359 (360)	1,077 (1,080)
利用率 (%)	100 (100)	100 (100)	100 (100)	100 (100)

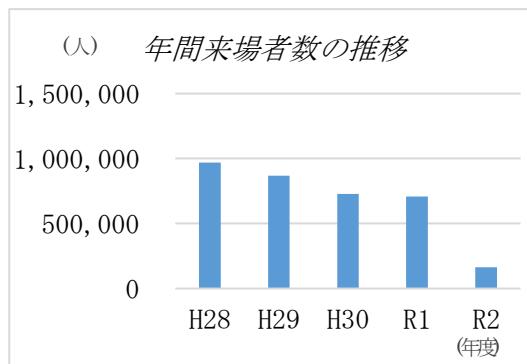
※休館日：12/29～1/3



◇年間来場者数

ツインメッセ静岡の年間来場者数は、コロナ感染症の影響による催事の開催中止が相次いだことから、来場者数は前年度と比較して544,993人減少し、163,588人となった。

- ・年間来場者数 ※()は前年度
163,588人(708,581人)



◇組織構成

(1) 役員 [R3.3.31 現在]

()は前年度

理事	評議員	監事	計
10人 (10人)	8人 (8人)	2人 (2人)	20人 (20人)

(2) 事務局 [R3.3.31 現在] ()は前年度

職員数 31人(31人)

◆内訳：事務局長兼課長1 (1) 課長2 (2) 担当課長1 (1) 参事5 (4)
センター長兼プロジェクトマネージャー1 (1) 主幹2 (2) 副主幹2 (2) 主任4 (4)
主事2 (1) 嘴託7 (9) 非常勤4 (4)

